

1. 評価報告概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

【評価実施概要】

事業所番号	1970101844
法人名	社会福祉法人ひかりの里
事業所名	グループホームめだかの学校シニア
所在地	〒 400-0016 山梨県甲府市武田1-3-23 電話番号 055-255-3551

評価機関名	山梨県社会福祉協議会		
所在地	山梨県甲府市北新1丁目2-12号		
訪問調査日	平成21年2月12日	評価確定日	平成21年2月25日

【情報提供票より】平成21年1月27日 事業所記入

(1) 組織概要

開設年月日	平成17年3月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	12人	常勤	2人 非常勤 10人 常勤換算 4人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋 造り
	3 階建ての 0 ~ 3 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	35,000 円	
敷 金	■有(90,000) □無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	□有() 有りの場合 □有 ■無 償却の有無 □無			
食材料費	朝食	0 円	昼食	0 円
	夕食	0 円	おやつ	0 円
	または1日当たり 1166 円			

(4) 利用者の概要 平成21年1月18日 現在

利用者人数	8 名	男性	3 名	女性	5 名
要介護1	0 名	要介護2	4 名		
要介護3	2 名	要介護4	0 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84.4 歳	最低	78 歳	最高	89 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	ひかりの里クリニック
---------	------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】作成日 平成21年2月16日

甲府駅北に位置する、このグループホームは、武田通りに面した3階建てビルの3階にある。2階には、児童養護施設があり、異世代間の交流も盛んに行われて、お互いにより影響を与え合っている。また、通りをはさんで、向かい側には、同法人のグループホームと小規模多機能型居宅介護施設があり、連携がとれ、協力体制も整えられている。管理者は、利用者の尊厳や安心を大切に熱意をもって、職員と共に日々の介護に取り組んでいる。利用者の生き生きとした様子が印象的である。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回の外部評価は、通りをはさんだ同法人のグループホームとも、問題を共有する必要性を感じ、管理者、リーダー同士が、話し合う機会を持った。その後、地域のつきあいは、深められ、プライバシーの確保も徹底されている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 主に、管理者、リーダーがまとめたが、職員会議で話し合い、意見交換がされた。自己評価の意義については、全職員が徐々に理解を深めている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 行事の報告、予定にとどまらず、地域でグループホームが理解されるよう、地域の協力を得ながら、話し合われ、実践されている。昨年より、文化祭の合唱に参加することができ、それを目標に利用者が毎週一回練習日を設けるようになり、生き生きと活動するようになった経過もある。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族へは意見、苦情が出せるよう、入居時に説明したり、目頃から話しやすい雰囲気づくりを心がけている。家族の意見から、肺炎のワクチンの摂取を全利用者を実施したり、職員の名札をつけるようにしたり、運営に反映している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 運営推進会議のメンバーを通して、グループホームを地域に理解してもらい、地域の文化祭や餅つき大会への参加をしたり、神社の掃除に参加している。また、日々の散歩や買い物をする事で、近所とも顔馴染みになっている。災害訓練時も、地域からの協力が得られる段階にある。

2. 調査報告書

事業所名：グループホームめだかの学校シニア

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者が安心して、笑顔で一日一日を大切に過ごせるよう、“尊厳と安心”を基本として、地域の中で共に支えながら生きていく、理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日の業務の中で、その都度、理念の確認をしている。また、職員会議の中で、確認をしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の餅つき大会、神社の掃除への参加、小学校の祭り、文化祭の参加、近所への買い物、また2階の児童福祉施設の行事参加を通して、地域とのつきあいが広がっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価、外部評価は、3階入口にいつでも見られるよう掲示されている。自己評価については、職員会議で話し合われ、主に管理者、リーダーがまとめた。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回開催され、事業の報告、予定にとどまらず、地域との付き合いが深められるよう、話し合いがなされている。文化祭の合唱参加も、昨年からスムーズに行われ、利用者の生きがいに発展している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センターとの関わりが深まっており、ホームでオレンジリングの研修会を開催した経過もある。また、市の介護保険課との情報交換も密に行われている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	月に一度法人から出される便りはあるが、ホーム独自の便りは作られていない。面会時や、電話で、利用者の健康状態、生活の様子を知らせている。また、行事の様子をビデオで見てもらっている。	○	家族に利用者の様子をより身近に感じてもらえるような、ホーム独自の便りを発行できるよう期待したい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設利用開始時、家族には、意見、苦情を出してもらえよう、システムについて説明している。面会時、コミュニケーションをとり、意見が出せる雰囲気をつくっている。これまでに肺炎ワクチンを全利用者に受けてもらったり、職員が名札をつけたり、具体的に対応している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動が多い現状はあるが、法人内の近いホーム3か所、及び小規模多機能型居宅介護事業所では、全職員が、その他の施設利用者の状況を把握しており、全体で馴染みの関係をつくりあげている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の甲府北部の施設を中心に、2か月に一度、職員が講師となり、内部研修を行っている。外部研修にも、積極的に参加している。また、他の職種が集まるモーニングセミナーにも参加している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県グループホーム協会の研修を通して、顔馴染みになった施設への見学に行き、学ぶ機会を得ている。まだ他のグループホームの職員の受け入れはしていない。	○	グループホーム間で、相互に施設見学をしていくことで、より一層、介護の質の向上にむすびつような、学びの場となるよう期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者、家族に見学に来てもらい、お茶を共にしたり、体験利用を通じて、馴染みの関係づくりをしている。また、家庭訪問もしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	生活全般にわたり、利用者から学ぶことがあり、料理、手仕事、歌など、職員も楽しみながら利用者と共に過ごしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者との会話を中心に、思いや意向の把握をしている。また、家族からも意向を把握するよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員会議の中で、利用者一人ひとりの状況や、要望、家族の意向もふまえて、話し合わせ、ケアマネジャーが介護計画を立てている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	日々の気づきを申し送りノートに記入したり、リーダーに報告し、状況の変化があった時には、速やかに介護計画を変更している。また、変化のない時は、2～3か月に一度、見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	2階、児童養護施設や、道むこうの同法人グループホーム、及び小規模多機能型居宅介護事業所が連携をとり、柔軟な支援をしている。例えば、家に帰りたい時は、付き添ったり、不穏時には、環境を変えるなどの対応もスムーズである。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	原則は、家族に支援してもらっているが、職員が対応することも多く、医療機関への情報提供も行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用開始時や状況変化時に、利用者・家族とその都度話し合いを持ち、意向に合わせた対応をしている。施設での看取りの経験はないが、それに備えた学習や体制はできている。現状では、医療が必要になる寸前まで対応をしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	トイレ誘導の声かけは、耳元でする等、配慮している様子が伺える。また、言葉づかいも、親しみを必要とする時や、尊厳を大切にする時と上手に使い分けている。記録は目につかないよう、配慮されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな一日の流れはあるが、利用者の状況や意向に合わせた支援がされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	毎週金曜日の夕食は、利用者の話し合いで、献立を決めている。また、利用者と共に準備や片付けをしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、利用者の希望に沿った時間に行われ、見守りがされている。また、バイタルチェックも行われている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	文化祭に向けての合唱練習は、毎週木曜日の午後に行われ、利用者の中で、音頭を取ったり、ピアノの伴奏する場面が見られている。掃除なども利用者がすすんでやっている。また、利用者間で面倒を見合ったりしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近所のスーパーマーケットや、近隣の小学校、神社へ散歩に出ている。希望に沿って、近所の美容院や薬局にも出かけている。季節の花見、紅葉狩り、イチゴ狩りも、2階と合同で行うこともある。買い物ツアー(中央市)にもしばしば出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は、鍵をかけていない。3階にあるので、外出はエレベーターを使っている。何かあるときの見守りは、2階や1階でもできている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、避難訓練を行っている。2階では、毎月一回行っているので、見学することもある。また、消防署での消火訓練を予定している。夜間想定訓練も、昨年実施した。水や非常食の備蓄もできている。近所の協力体制もできているが、一緒にはまだ訓練を実施していない。	○	近所の協力を得ながら、避難訓練を実施し、より安心感を、利用者や職員ももてるよう期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の管理栄養士が、献立を確認している。現状では、栄養摂取も水分確保も利用者自身でできる人が多く、必要な人は、きざみ食で対応している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るい光がやわらかく入ってきて、暖かい雰囲気があり、自然に居間に利用者が集まってくる。写真等も展示され、楽しい雰囲気になっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドを利用している人が多く、思い思いの物を持ち込んで、利用者の気に入った空間をつくっている。		